

草深たまご通信

草深キャラクター「そうくん」



社会福祉法人印旛福祉会

いんば学舎・草深 にわとり農場班

〒270-1337 千葉県印西市草深字柿録 484-3

TEL. 0476-48-6411 FAX. 0476-48-6400

http://inba-g.or.jp/shisetsu02.html

第12号(不定期刊) 2020年10月26日発行

草深の卵をご利用いただきましてありがとうございます。

今年は学舎の「収穫祭」も感染を考慮して中止となりました。

それでも季節は移ります。メンバーも、これ戸惑いながらも、作



日夜みんなの命とていらっしゃる皆さん、

畑は実りの秋を迎えます。までと違う生活様式に業に勤しんでいます。生活を守るために働いて学舎を支援していただ

■新鮮市場マルエイ 佐倉店(風のまーけっと) 閉店に伴うご案内



風のまーけっとにて、草深のたまごや学舎の野菜などをご利用いただき、誠にありがとうございます。このたびマルエイ佐倉店が10月末に

閉店することになりました。佐倉店は、草深のたまごを最もご利用いただいている店舗でしたので、非常に残念です。佐倉市内で販売可能な店舗を探しております。見つかりましたら、ホームページでご案内いたします。(右のQRコードからホームページにアクセス可能です) 以下は、草深のたまごを販売している店舗です。



- ドラムの里龍の市庭 (房総のむら隣接)
- 新鮮市場マルエイ白井店
- ナリタヤ印旛日本医大前店
- いんば学舎・石窯パン工房オソロク倶楽部

(※販売は不定期となります)

マルエイ佐倉店をご利用いただいている方で、卵をご希望の方はお電話にてお問い合わせください。

●デントコーンをみんなで収穫しました



毎年9月下旬に、保護者も参加して実施している共働作業日が、コロナ感染予防のため、メンバーと職員だけの参加となりました。このため、作業で3密にならないように、準備期間を含めて2週間をかけて、メンバーにも、また各班の作業計画にも

無理なく収穫や収穫後の作業(茎の切り倒しと根掘り、運び出し、実の吊るしなど)をすすめました。

今年は、初夏に大風でいったん茎が倒伏しましたが、職員総出で起こして土寄せした後は、順調に生育しました。実を吊るして乾燥したら、粉碎して餌に混ぜます。



●稲わらをいただきました

今年は、佐倉市内の農家さんより稲の収穫後の藁を分けていただきました。3回に分けて田んぼからトラックに積み込んで運びました。粉碎して鶏舎に敷きます。



●鶏舎から

前号で産卵率が70%を超えたことをお伝えしましたが、6月以降少しずつ産卵数が減り、9月以降は1日当たり100個前後になっています。(昨年は10月に1日当たり50個に落ち込みました)。鶏にも夏バテがあるとか、日が短くなると産まなくなるといわれています。夏バテ対策には緑餌をたっぷり食べさせるのが草深の流儀ですが、緑餌を食べるかどうかには個体差や集団差があります。この秋からにんにく粉を0.1~0.2%混ぜています。また昨年からは鶏舎に電灯(LED)を入れて夏場の日の出、日の入りに合わせて点灯しています。



ヘチマの葉を食べる鶏たち



ヘチマたわしづくりに挑戦しました

